

第2期

大河原町食育推進計画における 中間評価報告書



令和3年3月

大河原町健康推進課

目 次

1. はじめに	1
2. 第2期大河原町食育推進計画の概要	1
3. 計画の期間	2
4. 食育推進の体制	2
5. 食育推進の基本目標	3
(1) 大河原町食育推進事業 重点年度一覧	
(2) 大河原町食育推進計画 一覧	
6. 中間評価のためのアンケート調査結果	6
(1) 第2期食育推進計画中間評価のためのアンケート調査実施概要	
(2) アンケート調査実施状況	
(3) アンケート調査の評価	
(4) 目標指標と評価	
7. 大河原町における食をめぐる現状（数値目標に対する達成状況と評価）	12
8. 課題と方向性	28
参考資料	30

1. はじめに

大河原町では、健全な食生活を実践することができる町民を育てる食育を推進するための施策を総合的かつ計画的に推進するための指針として、平成23年3月に「大河原町食育推進計画」を策定し、『おおがわら』食で育むこころとからだ』をスローガンに様々な食育推進事業を推進しています。

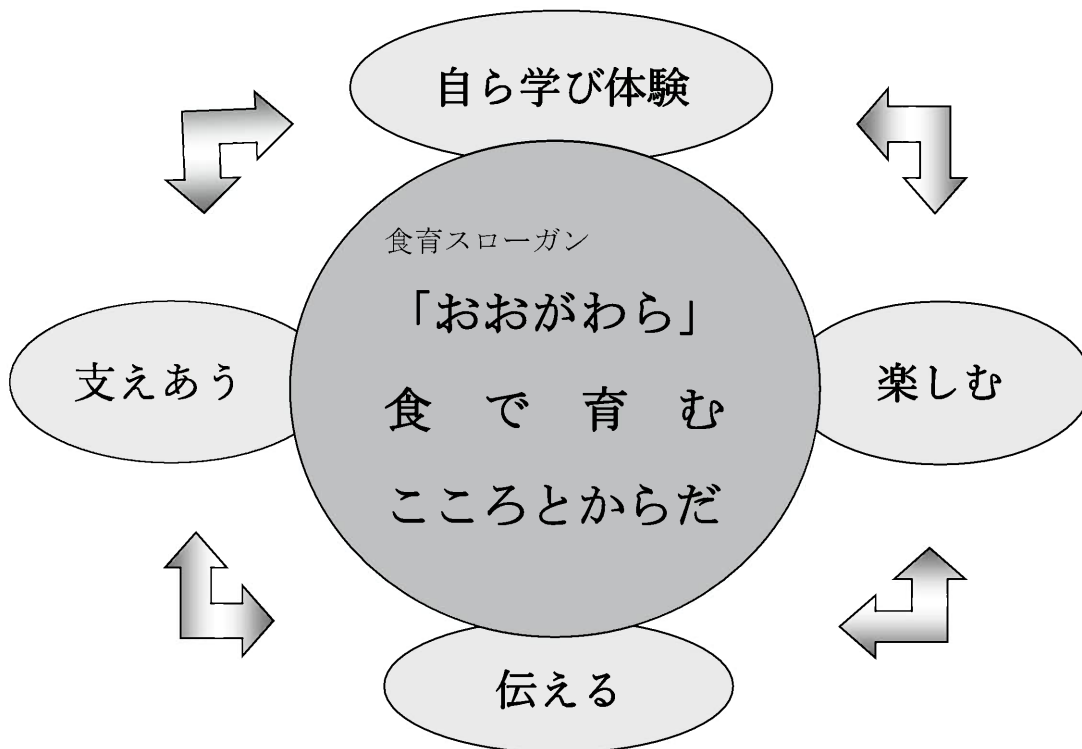
平成27年3月には食育に関する取り組みを検証し、更なる課題等の抽出のもと、「第2期大河原町食育推進計画」を策定し、ライフステージに応じた食育を推進してきました。

この度、本計画の中間評価を行い、本町におけるこれまでの取組の成果や課題を整理し、今後の目指す姿や取組の方向性などを再確認し、最終年度に向けて関係者が更に連携・協力を密にして取り組むために「第2期大河原町食育推進計画 中間報告書」を策定します。

2. 第2期 大河原町食育推進計画の概要

生涯にわたって健康で豊かな人間性を育むために、①食について自ら学び、体験し、食を選択する力を習得し、②楽しみながら心豊かな食生活を営む力を育みます。さらに③生活に根ざす知恵や技を地道に伝え、④みんなで支えあい、心と体が元気になるまちづくりを目指しています。

そのために、家庭や保育所、幼稚園、学校、地域などあらゆる機関が相互に連携し、食育を推進しています。



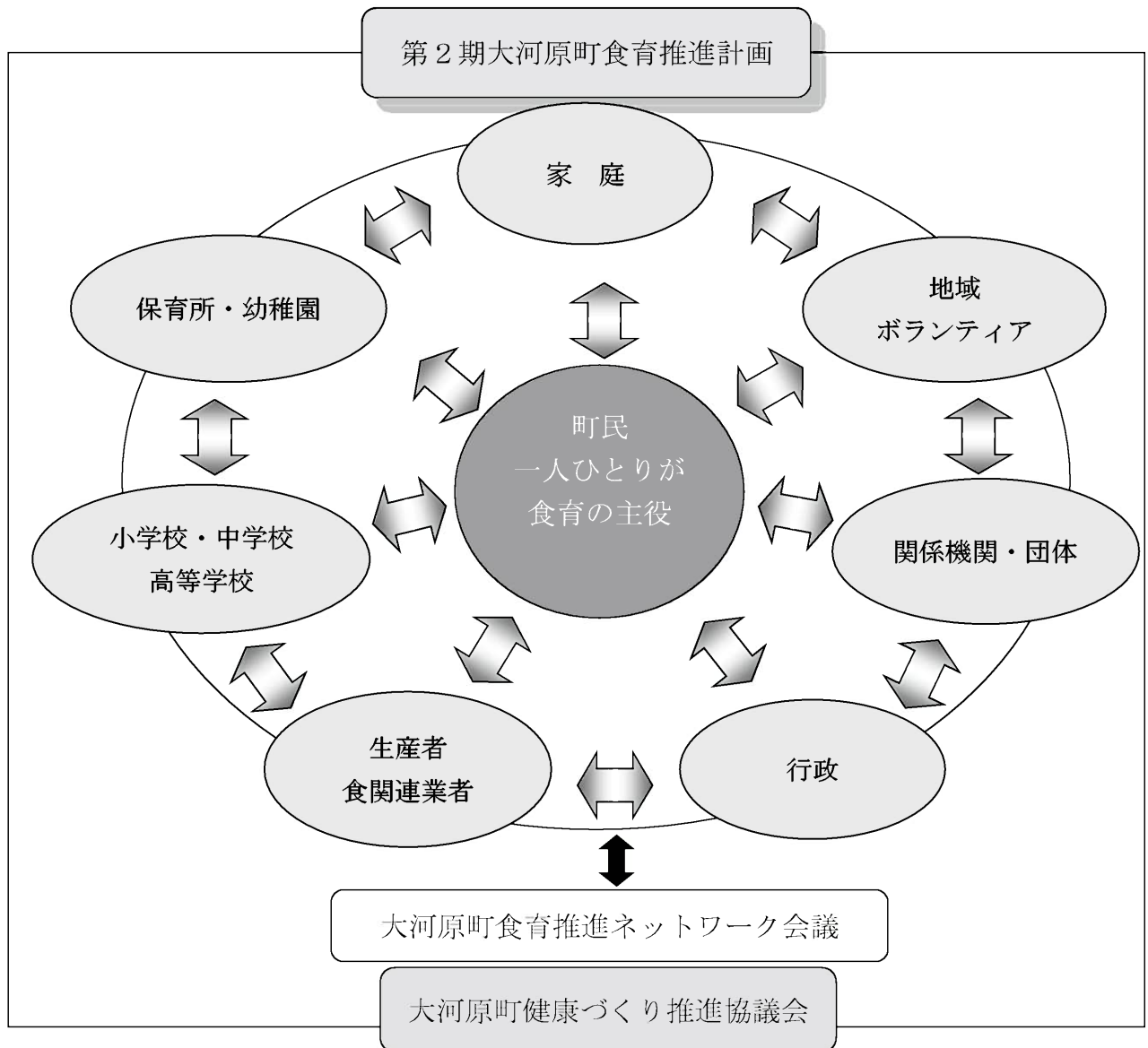
3. 計画の期間

計画の期間は平成 28 年度（2016 年）を初年度とし、令和 5 年度（2023 年）までの 8 か年計画としています。

4. 食育の推進体制

大河原町の地域特性を生かした本計画を着実に推進するために、食育に関する各種団体や多様な関係機関との連携体制を強化しながら、計画の周知を図り、計画に基づく取り組みを行っています。

また、当初計画の推進役を担ってきた「大河原町食育推進ネットワーク会議」を継続し、計画に基づいた推進施策の検討・連絡・調整を行い食育の推進に努めています。



5. 食育推進の基本目標

大河原町における食の現状と課題を踏まえ、基本理念のもと食育を推進していくために「**お・お・が・わ・ら**」にちなんだ5つの基本目標を掲げ食育を推進しています。

「お」 おいしく食べよう朝ごはん

私たちの健康増進のためには、規則正しい生活リズムを身につけ実践することが不可欠です。はやね・はやおきなど、本来人間が持っているからだのリズムに合わせた生活習慣の大切さを学び楽しく実践するために、一日の活動源となる「朝ごはん」を家族で食卓を囲みながら、おいしく食べることに努めましょう。

「お」 奥歯でよく噛み味わいながら

よく噛むことにより飲み込む機能がきたえられ、話すための舌や口唇、顎などの動きが維持されます。また、消化吸収が進み唾液の分泌が盛んになり、むし歯等の口の病気の予防にもつながります。さらに、満腹感が増し食べ過ぎを防ぐことができます。食べ物をていねいに味わって食べるために、今よりも5回多く奥歯で噛んで、生涯にわたり自分の歯を守りましょう。

「が」 家族で野菜のおかずをひと皿増やし

毎回の食事の中に野菜のおかずをそろえることは、栄養バランスのとれたよい食事の実現につながります。野菜を多く使った料理を1日5皿とることが目標ですが、まずは今よりひと皿増やすことを目指し、家族みんなで楽しく野菜をとることに努めましょう。また、栽培や収穫の体験を通し、食べ物への感謝の心を学び、残さず食べる習慣を身につけましょう。

「わ」 わが家（町）の食を伝えよう

地元でとれた旬の食材を食べる地産地消。主食・主菜・副菜をそろえて食べる「和食 わしょく→（わが食）」の良さを見直し、家族みんなで「旬の味覚を味わう」「地域の食材にふれる」「行事食を楽しむ」と共に、地域ぐるみで「食文化を継承する」ことに努めましょう。

「ら」 らくらく（楽楽）みんなで食育推進

町民一人ひとりが、食育への理解を深め、自ら食育活動が実践できるように、家庭や保育所、幼稚園、学校、地域、行政、その他食に関係する団体等が連携・協力し、それぞれの取組を相互に補完しあうとともに、市民活動として楽しく取り組めるように推進します。

(1) 大河原町食育推進事業 重点年度一覧

「おおがわら」にちなんだ5つの基本目標を年度毎に重点目標を設定し、ライフステージごとに食育推進の取組を行っています。

スローガン	基本目標	指標項目	ライフステージ別の推進の方向性							
			28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
「おおがわら」「食で育てる」のつとめがた	おいしく食べよう朝ごはん	○朝食を毎日食べる人の割合が増える ○朝食を大人と一緒に食べる子どもの割合が増える	○	◎	◎	○	○	○	○	○
	奥歯でよく噛み味わいながら	○むし歯のない子どもの割合が増える ○子どもも大人も肥満者の割合が減る	○	○	○	◎	◎	○	○	○
	家族で野菜のおかずをひと皿増やし	○1日の野菜摂取目安量を知っている人の割合が増える ○1日に摂取する野菜を多く使った料理を3皿以上食べる人の割合が増える	○	○	○	○	○	◎	◎	○
	わが家(町)の食を伝えよう	○農業体験学習に取り組む学校が増える ○学校給食における地場産品(果物・野菜等)の利用品目数の割合が増える ○地場産品を利用する人の割合が増える ○行事食を食べる人の割合を維持する ○食のボランティアと連携する学校を維持する	○	○	○	○	○	○	○	◎
	らくらくみんなで食育推進	○食育という言葉を知っている人の割合が増える ○食育推進ネットワーク会議を開催する	◎	○	○	○	○	○	○	○

(2) 大河原町食育推進計画一覧

基本理念 食について自ら学び、体験し、食を選択する力を習得し、楽しみながら心豊かな食生活を営む力を育みます。さらに生活に根ざす知恵や技を地道に伝え、みんなで支えあい、心と体が元気になるまちづくりを目指します。

スローガン	基本目標	指標項目	ライフステージ別の推進の方向性					
			乳幼児期	学童期	思春期	青年期	壮年期	高齢期
「おおがわ」食育を「まち」に広げよう	おいしく食べよう 朝ごはん	○朝食を毎日食べる人の割合が増える ○朝食を大人と一緒に食べる子どもの割合が増える	・規則正しい生活リズムを身につける。 ・家族と一緒に食べる。	・生活リズムを整え、朝食をきちんととる。 ・家族と一緒に食べる。	・生活リズムを整え、朝食をきちんととる。 ・家族と一緒に食べる。	・生活リズムを整え、朝食をきちんととる。 ・家族と一緒に食べる。	・生活リズムを整え、欠食をなくす。 ・家族と一緒に食べる。	・生活リズムを整え、「偏り」なく食べる。
	奥歯でよく噛み味わいながら	○むし歯のない子どもの割合が増える ○子どもも大人も肥満者の割合が減る	・離乳食期から子どものそしゃく力に合わせた食事を心がける。 ・ゆっくりよく噛む習慣を身につけさせる。	・前歯や奥歯の生えかわりに応じた食べ方を する。 ・歯磨きの習慣を身につける。 ・よく噛む習慣を身につける。	・永久歯のむし歯と歯肉炎を予防する。 ・正しいブラッシングを習得する。 ・よく噛む習慣を継続する。	・むし歯と歯肉炎を予防する ・適正体重を知り、活動に見合う食事の量をとる。 ・よく噛む習慣を継続する。	・歯の喪失を防ぐ。 ・適正体重を知り、活動に見合う食事の量をとる。 ・よく噛む習慣を継続する。	・口腔機能を維持・回復し、自分の歯でおいしく食べる。 ・適正体重を維持する。
	家族で野菜のおかずをひと皿増やし	○1日の野菜摂取目安量を知っている人の割合が増える ○1日に摂取する野菜を多く使った料理を3皿以上食べる人の割合が増える	・いろいろな食べ物を味わうことで味覚を養う。 ・野菜のおいしさを体験できる。	・バランスのとれた食事のとり方を知り、楽しく食べる。 ・野菜料理をおいしく食べる。	・食事に関心を持ち、調理の実践や食品を選ぶ能力を身につける。 ・1日の野菜摂取目安量を知る。	・食に関する正しい情報を選択できる能力を身につけて実践する。 ・野菜料理の技術を身につける。	・野菜のおかずを毎食食べる。	・野菜のおかずを毎食食べる。
	わが家(町)の食を伝えよう	○農業体験学習に取り組む学校が増える ○学校給食における地場産品(果物・野菜等)の利用品目数の割合が増える ○地場産品を利用する人の割合が増える ○行事食を食べる人の割合を維持する ○食のボランティアと連携する学校を維持する	・家庭でお手伝いができる。 ・家庭や保育所等で行事食を体験する。	・家庭でお手伝いを積極的に 行う。 ・学校給食を通して行事食や地場産品を知る。 ・体験学習や食に関わる活動を通して食への関心を高める。	・食文化や料理への関心を高め、料理づくりの楽しさを実感する。	・家庭食や行事食を家族や子どもに継承する。	・家庭食や行事食など食文化を家族や地域の人々へ継承する。	・人との交流により生きがいを持ち、家族や地域の人々へ食文化を継承する。
	らくらくみんなで食育推進	○食育という言葉を知っている人の割合が増える ○食育推進ネットワーク会議を開催する	・食育指導を充実させる。	・食育指導を充実させる。	・食育指導を充実させる。	・イベント等を通して食育を普及啓発する。	・イベント等を通して食育を普及啓発する。	・イベント等を通して食育を普及啓発する。

6. 中間評価のためのアンケート調査結果

(1) 第2期食育推進計画中間評価のためのアンケート調査実施概要

1. 目的

平成28年3月に策定した第2期大河原町食育推進計画の中間評価を実施するため、設定した指標29項目のうち13項目についてアンケート調査を実施し、その結果を分析することにより関係者が取り組むべき課題を整理する。

2. 実施主体 大河原町健康推進課

3. 調査時期 令和2年9月

4. 調査対象者

- ① 幼児期（保育所・幼稚園の5歳児）
- ② 学童期（小学5年生）
- ③ 思春期（中学2年生）
- 《成人期》
- ④ 幼児保護者（上記①対象者の保護者等）
- ⑤ 小中保護者（上記②③対象者の保護者等）
- ⑥ 一般成人（40歳以上の胃がん検診受診者）

5. 調査方法

- ・幼児期（保育所の5歳児）については、子ども家庭課を通し、各保育所に依頼し、アンケート用紙を配付。保護者等が記入し、各保育所で回収。
- ・幼児期（幼稚園の5歳児）については、直接幼稚園に依頼し、アンケート用紙を配付。保護者等が記入し、幼稚園で回収。
- ・学童期、思春期については、教育委員会を通し、各学校長に依頼し、アンケート用紙を学校にて配付。児童、生徒が記入し、各学校で回収。
- ・小中保護者については、教育委員会を通し、各学校長に依頼し、アンケート用紙を児童、生徒を通して保護者に配付。保護者等が記入し、各学校で回収。
- ・一般成人については、令和2年度胃がん検診受診者へ検診会場にてアンケート用紙を配布。会場で記入、回収。
- ・第2期食育推進計画策定に当たり実施した前回の調査用紙と同様とした。（別紙参照）

6. 集計・分析

健康推進課にて集計・分析を実施。

※集計にあたり、割合については少数点第1位で表記しているため、各割合の合計が100にならない場合があります。

(2) アンケート調査実施状況

① 調査の回収率と回答率

区分	対象数 A(人)	配付数 B(人)	回収数 C(人)	回収率 C/B(%)	有効回答数 D(人)	有効回答率 D/C(%)
幼児期 (5歳)	166	166	131	78.9	130	99.2
学童期 (小学5年生)	229	228	226	99.1	223	98.7
思春期 (中学2年生)	224	220	212	96.4	212	100.0
幼児期 (5歳) 保護者	166	166	131	78.9	130	99.2
小中保護者	453	448	344	76.8	339	98.5
一般成人	700	700	700	100.0	695	99.3
総計	1,938	1,928	1,744	90.5	1,729	99.1

※調査期間 (配布・回収) 令和2年9月14日～令和2年9月25日

② 調査の回答者性別状況

区分	男 A (人)	女 B(人)	総計 C(人)	男割合 A/C(%)	女割合 B/C(%)	総計 (%)
幼児期 (5歳)	67	63	130	51.5	48.5	100.0
学童期 (小学5年生)	118	105	223	52.9	47.1	100.0
思春期 (中学2年生)	106	106	212	50.0	50.0	100.0
幼児保護者	5	125	130	3.8	96.2	100.0
小中保護者	20	319	339	5.9	94.1	100.0
一般成人	272	423	695	39.1	60.9	100.0
総計	588	1,141	1,729	34.0	66.0	100.0

③ 保護者・一般成人年齢構成

(人)

年齢構成	20代	30代	40代	50代	60～64 歳	65歳 以上	総計
幼児保護者	10	79	41	0	0	0	130
小中保護者	0	118	198	22	1	0	339
一般成人	0	0	147	98	89	361	695
総計(人)	10	197	386	120	90	361	1,164
割合 (%)	0.9	16.9	33.2	10.3	7.7	31.0	100.0

(3) アンケート調査の評価

計画に設定した 29 項目に対する評価は、「A 目標値に達した」と「B 目標値に達していないが改善傾向にある」を合わせた 13 項目 (44.8%) が改善傾向となっており、食育推進の取組に一定の成果がうかがえます。

しかし、「D 悪化している」が 15 項目 (51.7%)、「C 変わらない」が 1 項目 (3.4%) となっており、これらの項目を中心に、更に目標値の改善に向けた取組が必要です。

目標指標と評価一覧 (項目数)

目標指標 項目数 評価	おいしく食べよう朝ごはん 7項目	奥歯でよく噛み味わいながら 13項目	家族で野菜のおかずを一皿増やし 2項目	わが家(町)の食を伝えよう 5項目	らくらくみんなで食育推進 2項目	合計 29項目
A 目標値に達した	1	5	0	2	1	9
B 目標値に達していないが改善傾向にある	1	2	0	1	0	4
C 変わらない	0	0	0	1	0	1
D 悪化している	5	6	2	1	1	15
E 評価困難	0	0	0	0	0	0
合計	7	13	2	5	2	29

各評価の主な目標項目は以下のとおりです。

A 目標値に達した

- 朝食を大人と一緒に食べる子どもの割合が増える (中学2年生)
- むし歯のない子どもの割合が増える (3歳児・5歳児・中学2年生)
- 子どもの肥満傾向の割合が減る (小学5年生(女)・中学2年生(男))
- 学校給食における地場産品(果物・野菜等)の利用品目数の割合が増える
- 食のボランティアと連携する学校を維持する
- 食育推進ネットワーク会議を開催する

B 目標値に達していないが改善傾向ある

- 朝食を大人と一緒に食べる子どもの割合が増える (5歳児)
- 肥満者の割合が減る (20~69歳(男)・20~39歳(女))
- 地場産品を利用する人の割合が増える

C 変わらない

農業体験学習に取り組む学校が増える

D 悪化している

朝食を毎日食べる人の割合が増える（5歳児・小学5年生・中学2年生・成人）

朝食を大人と一緒に食べる子どもの割合が増える（小学5年生）

肥満者の割合が減る（40～69歳（女））

1日の野菜摂取目安量を知っている人の割合が増える

1日に摂取する野菜を多く使った料理を3皿以上食べる人の割合が増える

行事食を食べる人の割合を維持する

食育という言葉を知っている人の割合が増える

むし歯のない子どもの割合が増える（小学5年生）

子どもの肥満傾向の割合が減る（5歳児（男）・5歳児（女）小学5年生（男）・中学2年生（女））

(4) 目標指標と評価

基本目標	指標	ベースライン (平成 27 年度)	中間値 (令和 2 年度)	目標値	評価	
おいしく食べよう朝ごはん	朝食を毎日食べる人の割合が増える	5 歳児	95.1%	94.6%	98.6%	D
		小学 5 年生	90.6%	87.6%	93.5%	D
		中学 2 年生	86.6%	84.0%	92.6%	D
		成人 (保護者含む)	88.1%	84.5%	94.6%	D
	朝食を大人と一緒に食べる子どもの割合が増える	5 歳児	74.4%	74.6%	86.9%	B
		小学 5 年生	59.6%	55.8%	60.2%	D
中学 2 年生		38.1%	50.0%	43.1%	A	
奥歯でよく噛み味わいながら	むし歯のない子どもの割合が増える	3 歳児	76.6%	*88.9%	80.0%	A
		5 歳児	52.9%	*69.9%	55.9%	A
		小学 5 年生	67.9%	*64.5%	70.0%	D
		中学 2 年生	48.5%	*57.8%	51.5%	A
	子どもの肥満傾向の割合が減る(軽度肥満肥満度 20%以上)	5 歳児 (男)	2.9%	*8.0%	0%	D
		5 歳児 (女)	0%	*6.5%	0%	D
		小学 5 年生 (男)	17.5%	*27.8%	減少	D
		小学 5 年生 (女)	16.0%	*9.3%		A
		中学 2 年生 (男)	10.7%	*6.5%		A
		中学 2 年生 (女)	13.2%	*15.5%		D
肥満者の割合が減る	20～69 歳 (男)	36.8%	*35.7%	28.0%	B	
	20～39 歳 (女)	19.3%	*18.1%	14.0%	B	
	40～69 歳 (女)	24.6%	*25.3%	19.0%	D	
家族で野菜のおかずをひと皿増やし	1 日の野菜の摂取目安量を知っている人の割合が増える	成人	18.0%	17.3%	30.0%	D
	1 日に摂取する野菜を多く使った料理を 3 皿以上食べる人の割合が増える	成人	34.8%	26.0%	40.0%	D

わが家(町)の食を伝えよう	農業体験学習に取り組む学校が増える		4校	4校	5校	C
	学校給食における地場産品(果物・野菜等)の利用品目数の割合が増える	小・中学校	31.9%	*33.7%	33.0%	A
	地場産品を利用する人の割合が増える	成人	91.3%	91.4%	97.3%	B
	行事食を食べる人の割合を維持する	成人	55.3%	50.2%	50.7%	D
	食のボランティアと連携する学校数を維持する	小・中学校	3校	3校	3校	A
らくらくみんなで食育推進	食育という言葉を知っている人の割合が増える	成人	66.6%	66.2%	80.0%	D
	食育推進ネットワーク会議を開催する		年3回	年2回	年2回	A

*印は令和元年度の数値